

令和4年度事業計画書

自 令和4年4月 1日

至 令和5年3月31日

社会福祉法人 晃宝会

目 次

はじめに	1
特別養護老人ホーム あじさい園	2
ショートステイ あじさい園	4
医 務 室	5
歯 科 衛 生 士	6
デイサービス あじさい園	7
居宅介護支援事業所	8
ケアハウス あじさい園	9
グループホーム あじさい園	9
管理栄養士・調理師	10
ニコニコタクシー (介護輸送サービス)	11
訪問看護ステーション いちご	11
オレンジカフェ すいもん	12
特別養護老人ホーム あじさい園宝	13
ショートステイ あじさい園宝	16
ハーネ 中御門	17

社会福祉法人 晃宝会
理事長 松村圭祐

令和4年度法人目標 「One Team 共に歩もう 温かい心で」

私達は、より一層、温かい心でご利用者支援を行い、安心しておだやかな生活を送っていただけるようつとめます。障害者グループホームハーネ中御門の事業も始まり、各々事業所内でのチームワークはもちろん、法人内の事業所同士のつながりを深め、One Teamとして地域共生社会の実現につとめます。

この度の新型コロナウイルスパンデミック後は、現役世代の減少、医療介護を必要とする後期高齢者の増加、発達障害や医療的ケアの必要なこどもも増え、福祉サービスのニーズが高まると予想されます。

地域共生社会実現のため、セーフティネットの主たる担い手である社会福祉法人の関わる範囲は広がります。なぜなら、すべてのひとが人としての尊厳をもって家庭や地域の中で、その人らしく自立した生活を営めるよう支える「自立支援」は従来、支援や救済の対象となる一部の人の幸福を求める福祉領域でありましたが、今は地域住民全体の災害も含めた福祉課題に取り組むことが求められているからです。

法人職員は、施設の質の向上のみならず、地域のお困り事を受け入れ、共に考え、地域共生社会実現の核であるという自覚が必要です。さらに、高齢者だけでなく、障がい者、児童、生活困窮者などの問題にも、広く積極的な対応が求められ、生きづらさや、生活課題解決のため、地域力と社会福祉法人の活動の協同も必要です。

信頼される社会福祉法人に成長するために、法人職員一人ひとりが、ソーシャルワーカーであることを自覚し、よりよきをめざします。人や社会のことを深く見つめ、人生の幸福を追求する福祉の仕事、晃宝会の職員はこの大切な事実も、ご利用者、ご家族、地域の皆様からおそわりました。それぞれの役目を果たし、社会貢献の一助を担い、努力をおしまない職員の集まりであることも申し添え、今年度は「One Team 共に歩もう 温かい心で」を胸に前進いたします。

特別養護老人ホーム あじさい園

法人目標 『One Team 共に歩もう 温かい心で』について

私達は、ご利用者が安心して穏やかな園生活を過ごして頂ける様に職員の経験や知識を活かしつつ、お互いを尊重し意識を高め合いながら笑顔と温かい心で援助していきます。また、人生の先輩であるご利用者を援助させて頂く事により新しい発見や刺激を受けながら共に歩んでまいりたいと思います。

パーソンセンタードケアのために

- ・職員一人ひとりの接遇力を向上し、尊厳、自尊心を傷つけないようにご利用者に対し笑顔と温かい心で支援・援助を行います。
- ・ご利用者、家族様、職員の思いが実る、「笑顔が増えるケアプラン」を立案します。
- ・認知症をお持ちのご利用者の出来にくい事や、ご利用者からのサインに目を向け、その人らしく生活して頂ける様に援助します。
- ・看取りケアについては、これまで続けてきた生活が、心身の状態変化によって形を変えつつも最期の最期まで継続できるよう切れ目なく援助します。
- ・ご利用者と職員が笑顔で楽しめるアクティビティーや、四季折々の風景の中を散策し、楽しみを持ちながら生活して頂けるよう支援いたします
- ・ご利用者の些細な状態変化にも目を配り、職員が自信と誇りを持って対応し安心して頂ける支援を目指します。
- ・毎日の業務を行う中での気づきを会議の議題として話し合い、必要に応じマニュアル等の改善を行い、ご利用者にも職員にも負担がかかり過ぎることのない勤務体制づくりを目指します。

過ごしやすい空間づくりのために

- ・自然の光や風を感じられる、明るく清潔で居心地良い安らぎのある雰囲気作りを目指します。
- ・生活空間の整理整頓や清掃については、職員みんなで協力しながら行うことで清潔感のある空間作りに取り組みます。
- ・笑顔と気持ちのよい挨拶、丁寧で美しい言葉かけを励行します。
- ・ご利用者に、その人らしい美しいお姿で過ごして頂けるよう整容に気を配り、職員は第三者に好感を持って頂ける清潔感のある身だしなみを心掛けます。

『職員』という環境を整えるために

- ・笑顔で挨拶、丁寧な対応と思いやりのある美しい言葉かけをはじめとする、ホスピタリティあふれる接遇を継続していきます。
- ・電動ベッド・スライディングボードを活用し身体への負担軽減及び職員一人ひとりが腰痛予防につながる介護技術の習得が出来るよう啓蒙します。
- ・職員には、能力や性格などで個性はありますが、ご利用者や職員同士でも相手を思いやり、相手の立場になって考え行動出来るように研修や勉強会で介護の意味や倫理を伝えお互いの成長を支え合います。
- ・年間目標を軸として、毎月の目標を掲げ職員全員で達成できることを目指し、毎月の達成状況を把握します。職員それぞれのレベルに応じ助言・指導を行い意識向上・スキルアップを目指します。

・経験の長い職員は、職員一人ひとりに目配りし普段からの声掛けや面談等で悩みを聞き助言を行うことで、ストレスを溜めず誰もが生き生きと活躍できる職場環境を目指します。

・技能実習生について

3年目を迎え、明るく元気に頑張ってくれています。日本語も理解してくれ時々ご利用者や職員に冗談を言うほど上達してくれています。介護技術や知識はずいぶん身に着けてくれています。ご利用者の状態が変化した時や、突発的に何かがあると戸惑う事もあるようです。職員みんなでサポートしていきたいと思えます。

職員みんなの知恵と工夫を集結してサービス向上に努めてまいります。

安心して過ごして頂くために

- ・未だ新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、感染症対策の徹底、委員会活動の強化、情報収集、勉強会を行い対応力の強化に努めます。
出勤時、業務に入る前に手指消毒、業務前の検温、食堂・居室・廊下・車椅子など手に触れる場所全ての消毒を毎日行います。
 - ・感染状況や情報を元にマニュアルを改訂し、実際の取組に落とし込んでいきます。
 - ・職員はプライベートでも必要以外の外出を控えます。
 - ・食事以外は、ゴーグル・マスクを着用し飛沫からの感染予防対策を行います。
 - ・感染者が発生した場合、濃厚接触者の特定がしやすいように排泄介助・移乗介助・食事介助を行った時は名前の記入を行います。
 - ・会議はソーシャルディスタンスを保ち、3密を避け、リモートなどを実施し少人数で行います。
 - ・更衣室での私語は慎み、寮母室での食事は黙食とします。
 - ・会話をされるご利用者同士はアクリル板を設置し飛沫防止に努めます。
 - ・スタンダードプリコーション（標準予防策）を基に介助前・介助後は手洗いをし、1ケア・1手袋・手指消毒を徹底し感染症予防に努めます。
 - ・5～6月には食中毒の予防として毎食前の手指消毒を徹底し、食べこぼしや口の周りなどの衛生面に配慮いたします。職員には、「付けない・増やさない・殺菌する」の予防の3原則を心掛けるよう啓蒙し予防に努めます。
 - ・1～3月には、インフルエンザ・ノロウイルス等の予防に努めます。流行前に勉強会を行い職員に周知徹底します。もしも感染者が出た場合も、感染が拡大しない様職員が媒介者にならない様マニュアルに基づいた対応を行います。また、日頃からトイレ手摺りや便座の消毒を行い清潔保持に努めます。
 - ・日頃から居室、車椅子、ベッド周りの清潔保持に努めます。
 - ・看護師と連携しご利用者の状態観察を行い、些細な変化にも申し送りを行いながら健康管理を行って行きたいと思えます。
- ◎事故防止対策については、引き続き「セーフティーマネジメント」（ご利用者の立場からアクシデントを未然に防ぎ、安全を確保するための管理体制）にて行います。
- ◎食事箋（食事形態）の検討や変更については、ご利用者の状況に合わせタイムリーに行えるように致します。
- ◎歯科医師、歯科衛生士の助言のもと、ご利用者個々の状態に合わせた口腔ケアを行い、いつまでも美味しく食事を楽しんで頂けるよう支援します。

◎新しい備品などを試し、ご利用者が快適に過ごして頂くために有益な物を積極的に取り入れます。

稼働率の安定を目指して

- ・ご利用者の体調管理と事故予防対策を丁寧に行います。
- ・入所検討会議における、次期入所者検討を効率化し、常に数名の内定者を確保しておき、退所後の空所期間 14 日以内を目指し、年間を通じて 53 床の稼働平均を目標とします。

経費節減を目指した取り組み

- ・エアコンや電灯のこまめなスイッチオン/オフにて適正使用に努め、備品を丁寧に取り扱いします。
- ・洗剤等消耗品の適量発注と無駄のない使用を行い、節水に心掛けます。
- ・ご利用者に気持ち良くお過ごし頂ける事を前提とし、オムツ・リネン等の効率的な使用を目指します。常にアンテナを張り、安価で良い物があれば都度見直し、業者や出納責任者とも連携を図り、経費節減に努めます。
- ・発注データの価格変更など定期的に更新し管理をします。また、同データを使用している他部署とも連携を図り、管理できる体制を構築します。

ショートステイ あじさい園

今年度法人目標「One Team 共に歩もう 温かい心で」を基に以下の取り組みを実施致します。ショートステイでは温かい心と温かい対応でご利用者一人ひとりに寄り添い、笑顔の絶えない環境作りに努めていきます。また、ご家族様をはじめ職員間や他事業所・地域の皆様と力を合わせ、One Team になってより良い施設作りに努めていきたいと思ひます。

サービス提供について

私たちはご利用者やご家族・地域の方々を支えられていることを念頭に入れ、目配り・気配り・心配りと機転をきかし、ご利用者のどんな些細なニーズにも耳を傾け、思いやりと笑顔を忘れず対応してまいります。

新型コロナウイルスと言う目に見えない敵が猛威を振り、感染防止の対応や規定・制限等でご利用者・ご家族にはお手数をおかけすると思ひますが、「また利用したい」と言っただけするように精一杯のおもてなしをいていきたいと思ひます。

また、職員自身も新しい事にチャレンジする気持ちと向上心を持ってスキルアップに努めていきます。そして、常に安定した稼働率（90%以上）を目標に、健全な運営の維持を目指します。

事故・感染症について

安心・安全で施設生活をおくって頂けるようご利用者一人ひとりの日頃の状態を把握し、身体の変化を見逃さず、迅速な対応と、ご家族・担当ケアマネージャーとの連携や医療（看護師等）との連携を密に図ってまいります。職員は、常に「もしも」・「いざ」という時の対応・行動が迅速かつ的確に行えるように、適切な知識と技術の取得に努めます。常日頃、事故の防止に努め、ヒヤリハットの分析を行い、事故発生時には、報告・連絡・相談の上、早期対応及び再発防止に努めます。感染症流行時期には、ご家族にお知らせの手紙を配布し、注意を呼びかけ、また広報誌「ゆめあじさい」においても感染

予防の啓発やご理解をお願いします。感染症対策では、勉強会・会議を通して、職員への意識づけを徹底し、平常時から予防に努め、ご利用者が安心して生活出来る環境作りを行います。

送迎について

送迎時のトラブルや事故がない様に、常日頃から報告・連絡・相談を意識して、ご利用者の方々が安心・安全に利用して頂けるように努めます。

事前のアセスメントを、細かく行い、周知、理解することで、事故の予防に努めていきます。

医 務 室

医務室の基本的な役割は、ご利用者の健康管理と職員の心身の健康状態の把握とアドバイス、感染症の発症予防と蔓延防止対策、事故防止対策、産業医と安全衛生委員との連携による、職員の労働災害の予防対策及び職員のメンタルケアに努めることです。

1. 健康管理

① 健康状態の把握

- ・毎日のバイタルチェック、申し送り、巡回でご利用者の健康状態を観察させていただきます。
- ・多職種との連携により、統一した視点で日常の健康チェックを行います。
- ・異常の兆候を早期に発見し、医師への連絡、指示を仰ぎ適切な処置をさせていただきます。

② 健康診断

定期健康診断、各種検査を行い、医師との連携により適切な看護、医療へとつなげていき、健康状態を把握させていただきます。

③ 健康の維持

個々の健康状態に適した運動、食事、休養の必要量を判断し、介護職員・栄養士等と協力し実施できるようにさせていただきます。

④ 健康教育

- ・健康についての正しい知識を普及し、老化と共存し、穏やかな生活ができるよう、また、老いの受容を精神面から援助させていただきます。
- ・疾病予防のための知識の普及に努めます。

⑤ 受診への対応

受診の必要性を判断し受診計画を立て、多職種の協力を得て受診につなげ、付き添い介助を行います。

⑥ 職員も心身ともに健康でなくてはならない、その為の健康管理を行います。

個人に関わる事に関しては、プライバシー保護に努めます。

2. 健康障害を持った高齢者への対応

① 疾病を持った高齢者への看護

疾病が老化とともに確実に増加し、医療を必要としています。

- ・疾病の予防と早期発見、合併症の予防
- ・疾病の早期治療援助

② 認知症高齢者への対応

認知症の高齢者は、高齢者自身が悩み苦しむだけでなく、周囲の人々を巻き込む事が多い。「異常行動」「問題行動」を起こす人としてとらえるのではなく、援助を求め、必要としている人間として、認知症高齢者に目を向ける中で、ケアの在り方を考えます。

- ・認知症高齢者の精神状態を正しく把握させて頂きます。
- ・身体、精神、環境の相互関係を踏まえます。
- ・介護職員への助言、研修を行います。

3. 感染症予防について

- ・社会全体と県内の感染症の状況を常に把握し、先手をうてるよう、各委員会と協力して、感染症予防と蔓延防止に努めます。

令和4年度法人目標 「One Team 共に歩もう 温かい心で」

今の保健・医療・福祉はどの職種でも単独で成り立たないものです。

本人、家族様の選択や希望に沿って医療・介護・予防・生活が統合的に支えられるよう、医師、看護師、介護士、リハビリ、薬剤師、保健師、栄養士、歯科医師、歯科衛生士、社会福祉士、医療ソーシャルワーカー、民生委員、自治会などの支援者の連携が必要になります。支援するにあたって、それぞれの立場によって思いや、価値観の相違があると思いますが、ご利用者を支えると言う共通の目標に向けて看護職として、ケースに応じた適切かつ柔軟な対応、素早い判断、報告、連絡、相談の徹底など行うべきことの検討をし、それぞれの専門職の力を借り、お互いの持つ能力を発揮し、課題に向き合っていきたいと思います。

施設だけではなく、地域の中にある社会福祉法人としての役割、その地域に住む人たちが安心して暮らせる場所、集える場所になるよう、法人としての役割、取り組みなど法人職員として努力していききたいと思います。

歯科衛生士

令和4年度法人目標 「One Team 共に歩もう 温かい心で」

平成8年、あじさい園開園当初より、晃宝会は口腔ケアにしっかり取り組み、令和4年度も、より一層広義の口腔ケアに取り組みます。

口腔ケアの効果には、以下があります。

1. 誤嚥性肺炎の予防（口腔内細菌を減らす）
2. 認知症予防・廊下予防（口を動かして脳を刺激）
3. 転倒予防（咬み合わせ改善による）
4. 低栄養予防（口腔機能改善）
5. 唾液による自浄（唾液分泌促進）
6. 発熱をおさえる
7. 心臓病予防（歯周病菌による動脈硬化）
8. 糖尿病予防（歯周病菌が血中に入りインシュリン阻害）

すべてのご利用者の口腔内の状態を常に把握し問題点を見出せば、速やかに歯科医療や機能的口腔ケアにつなげていきます。

ご利用者に口腔に関する不都合があれば、医務の看護師や、介護職員と連携をとり、

素早く対処できるようにしていきます。

食事介助やレクリエーション、口腔体操（機能訓練）などにも積極的に取り組み、嚥下やかみ合わせ等、歯科の観点からのアドバイスや協力をしていきます。

以上を、「One Team 共に歩もう 温かい心で」を念頭にしっかり寄り沿ってまいります。

デイサービス あじさい園

あじさい園デイサービスでは、ご利用者はもとより地域社会における福祉の充実に貢献するために、広い視野を持ち、適正かつ活力あるサービスを提供致します。

様々なニーズを一早く捉え、ご利用者・ご家族、地域の方の一番近い、信頼できる存在であるよう努力致します。

重点目標

ご利用者の増加を図るべく、居宅介護支援事業所、包括支援センターとの連を図ります。また、ご利用者に満足していただける対応、体制、サービスの提供を行っていく為、体験利用（無料）の充実を計画し、稼働率80%以上を目指します。

昨今の状況に伴い、感染予防の強化、職員の技術・知識の向上に努めます。

具体的なサービス内容

- ① 新規ご利用者への援助
- ② ケアプランに基づくケアの実施
- ③ ADL/QOL の維持向上 レクリエーションの実施
- ④ 感染症対策の強化（新型コロナウイルスに対応）
- ⑤ 勉強会・研修の実施

ノーマライゼーションの理念に基づき、ご利用者一人ひとりが心豊かで快適な生活が送れるように、ご利用者の意思及び人格を尊重し、常にご利用者の立場に立って、課題と意向を把握し、多様なニーズに迅速に対応致します。

法人目標「One Team 共に歩もう 温かい心で」

感染症の拡大による、不安や生きづらさを感じる方が多くなっています。そんな事態だからこそ、職員、ご利用者、ご家族、そして地域の方々と手を取り、寄り添うことで乗り越えられたらと思っています。社会のニーズは目まぐるしく変化しますが、一人で見るとはならず、皆で様々な方面から見て、発信する。それこそが団結であり、大きな力として前進することができると思います。

思いやりの気持ちを大切にし、常に相手の立場に立ち行動することを忘れません。

職員一人ひとりが、向上心を持ち、常に前を向いて歩けるよう、互いに温かい心で支え合います。

そして、ご利用者、ご家族、地域の方々に大きな力になれるように努めます。

居宅介護支援事業所

法人目標「One Team 共に歩もう 温かい心で」を踏まえ、ご利用者・ご家族、一人ひとりに寄り添った支援が行えるように下記の点に力を入れ支援提供に努めてまいります。

①在宅生活継続への支援について

生活課題を分析し、ご利用者とそれを支える家族がその解決に主体的に臨める計画提案に努めてまいります。

②ご利用者の尊厳を守る

援助関係においてご利用者の人権を守ることだけでなく、同時に地域社会・家庭においても人権を侵害されることのないように配慮しご本人の最も身近な代弁者であることを常に心に留め、提供されるサービスなどが特定の種類、または特定の居宅サービス事業者に偏ることのないように公正、中立の立場を保ちます。個人情報の取り扱い、厳格な管理の下で行います。

③医療ならびに各関係機関との連携と協働について

各関係市町村の保険者、地域包括支援センター、他の介護保険施設ならびに介護保険事業所、医療機関との連携に努めます。

入退院時の医療機関への情報提供や情報収集を行う、在宅生活に復帰できるように連絡、連携を行います。

④職員の資質向上について

ICTを活用したオンライン研修、自らの対人相談援助技術の向上、ならびに高齢者支援に関する自己研鑽に努め、介護支援専門員同士が協力して事業所内の質の向上を目指します。介護支援専門員同士のつながりを大切にし、包括支援センターや地域の関係機関との地域ケア会議に参加し地域の問題を共有、地域貢献に努めてまいります。

⑤事業所運営の安定と拡大について

・柔軟に新規の受け入れを行い、給付管理件数を伸ばし安定した運営が行われるよう努めてまいります。事業所としての平均担当件数は一月あたり70件を目標とします。(常勤換算二人)

⑥感染症対策について

新型コロナウイルス等、感染症の拡大防止に努めます。

法人目標 「One Team 共に歩もう 温かい心で」について

介護保険制度だけではご本人・ご家族の生活ニーズは解決できないことが増えていきます。「地域共生社会の実現」が謳われる今、ご利用者の生活ニーズに応じて介護保険給付やそれ以外の保健・医療・福祉サービス、地域住民による自発的な活動など、さまざまなサービス・支援をケアプランに位置づけることが求められています。その一人ひとりの「ご本人の望む生活・暮らしができる」という共通の目標に向かい、事業所それぞれの役割と専門性から取り組めるように、ご本人・ご家族の意向を取り入れた「ケアプラン」を作成し、我々介護支援専門員が中枢役として one team でチームアプローチしていけるように、共に歩み、笑顔を忘れず、温かい心をもって業務に従事していく所存です。

ケアハウス あじさい園

令和4年度法人目標 「One Team 共に歩もう 温かい心で」

職員はいつも、ご利用者に思いやりと笑顔で接し、心穏やかに安心してお過ごし頂けるよう努めています。

相手の立場に立って物事を考え寄り添う、そんな日常的な流れの中で、時には他部署職員に相談、協力頂き解決する事も多々あります。

ケアハウスの一職員だけでなく、晃宝会の一職員としての自覚を持ち、ケアハウスご利用者は勿論の事、地域の方達からの相談にも温かい心で接し、地域の皆さまと共に歩んでまいります。

1. 職員は、チーム連携で仕事が成り立っている事に自覚を持ち、職員同士、他部署とも連携を図り、業務を円滑に進め、ご利用者皆さまの生活を支えます。
2. 職員は、ご利用者を敬う気持ちと笑顔で接し、コミュニケーションを図り、信頼関係を築きます。
3. ご利用者に居心地良く、安心して生活して頂けるよう、職員は常に気配りし、温かい心で接します。
4. 月平均利用者数27名、稼働率90%を目指します。

グループホーム あじさい園

法人目標 「One Team とともに歩もう、温かな心で」

ご利用者にとってグループホームでの生活が、これからも充実しここへ来てよかったと思って頂けるよう努めます。

そのために職員一人ひとりの頑張りがみんなの刺激となり研鑽を積み一つのチームとしてご利用者のADL、QOLの維持向上に努めます。

職員の勤続年数も上がってきていますがその強みを生かしながらも、初心を忘れずにお互いが馴れ合いにならずに緊張感を持ったチームであり続けます。月例のグループホーム会議を実施し風通しの良い意見の出しやすい場を設け改善すべき点は改め、惰性に流されていないかも確認し、もっとよくしていこうとする向上心を大切にします。

認知症の進行や周辺症状を単に問題行動として片づけるのではなく、しっかりと原因をさぐり冷静な気持と温かな心でご利用者お一人おひとりと向き合い日々の生活をお支え致します。

また、グループホーム内だけでとどまらず、外へも目を向けて他職種とのつながりを結びながら個人のレベルアップを図りより強固なチームづくりにもつなげていきます。

運営推進会議について

コロナ禍に入り2カ月に1度、お電話や書面によるリモート形式をとらせていただきました。皆様からは温かなお言葉や貴重なご意見を頂戴し、地域の皆様に支えられていることに感謝し、このつながりを今後も大切にいたします。

今年度は5月21日（土）オレンジカフェすいもんにて集合会議の再開を予定しております。皆様とお会いできる日を心待ちにしております。

ご利用者の笑顔のための余暇活動について

ご利用者の笑顔が我々職員のやりがいであり元気の源であります。日々の業務におい

て時間に追われたり人手が足りなかつたりすることもあります。ご利用者本位の基本を忘れずに努めます。

グループホームの特性を生かした役割づくりの推奨、洗濯物を干したり畳んだり、簡単な食事の準備等をして頂く事によりやりがいや生活に張り合いを持っていただきます。これからもレクレーション、体操の充実を継続いたします。

いつも歓声に包まれ笑いが起き点数を競い合ったり、身体機能が低下された方もカバーし合いながらみんなが笑顔で楽しめる遊び、ゲームを考案し豊かな余暇活動の時間を提供いたします。体操のDVDも新しいものがあれば購入し、みんなで身体を動かし一体感を感じてもらい、心も身体もお元気になって頂くよう努めます。

ご家族との信頼関係について

コロナ禍で面会の制限、休止をお願いしている中でご家族とのつながり信頼関係もしっかりと構築いたします。ご家族の入所時の不安や看取り期の心の揺れなどにも配慮し、緊急時にも迅速かつ的確に対応できるよう努めます。毎月の担当職員によるお手紙を通じてご利用者の生活状況や安心をお届けいたします。

管理栄養士・調理師

法人目標「One Team 共に歩もう 温かい心で」

今年度もコロナ禍の中、職員一人ひとりが気配りをしながら、ご利用者に食事で喜んで頂き豊かな生活を送って頂くための大切な役割を担っているため栄養士、厨房職員が協力し、よりよいサービスが提供出来るよう、またご利用者に寄り添いながら温かい心で業務に努めてまいります。

新型コロナ感染症拡大により 当たり前だと思っていた生活スタイルは一変し、3密を避けマスクの着用、手洗い 手指消毒など感染対策の日々が続いています。感染対策のため制限される事が多くありますが、そんな中でも美味しい食事を提供する事がご利用者の活力になるようOne Teamの心で取り組んでいきます。

「食事提供について」

施設内の厨房ではご利用者が自宅でくつろいでいるような食事提供を目指し安心、安全、手作りにこだわって職員が真心込めて調理しています。

疾患などにより食事に制限のあるご利用者に対しては、医師の食事箋に基づき代替食の利用 また、一人ひとりにあった食事を提供し他職種と共にご利用者の栄養改善に取り組みます。ターミナル期や低栄養のご利用者には栄養補助食品の提供を行うなど、ご本人の状態を考慮し柔軟に対応します。

食事にて四季を感じて頂けるよう季節の食材、行事食を提供します。調理技術や調理法を習得し、ご利用者が少しでも食べやすく、安全に召し上がって頂けるように努めます。

よりよい食事の提供が出来るように給食会議、厨房会議を設け 意見交換や食事に関わる連携調整を行います。

「感染症予防」

○日々の清掃を徹底し、安心して食事して頂ける環境づくりに努めます。○食品管理、定期的な厨房内の衛生チェックを実施し予防に努めます。○一人ひとりがより正しい知識を身につけ、食中毒や感染症予防について学び衛生管理について知識を高めます。

ニコニコタクシー（介護輸送サービス）

法人目標「One Team 共に歩もう 温かい心で」

- ・要介護支援者、要介護度者、さまざまな障がいをお持ちの方が、ひとりでは公共交通機関を利用することが困難な方にご利用いただきます。サービス提供者は全員ホームヘルパー2級・2種免許の有資格者で、安全第一をモットーに、温かい心で、サービスを提供いたします。
- ・地域の実情に応じた包括的な支援のひとつとして、公益事業であるタクシー事業を行い、地域共生社会の実現に積極的に取り組んでまいります。
- ・ご利用者の尊厳を守り、お一人おひとりの気持ちに寄り添い、悩みや困り事、心配事等、会話の中から汲み取り、介護支援専門員や医療、福祉、保健等の専門職との連携をスピーディーに行いサービスを提供いたします。コミュニケーションの時はご利用者の気持ちにしっかり寄り添い、温かい心で対応します。
- ・ご本人やご家族から信頼をいただけるよう、また地域の皆様に常に安心を提供すべく努力し、信頼関係を構築します。又、できる限り迅速に対応します。
- ・急発進や急停車に気をつけ、制限時速を守り、思いやりのある安全・安心運転をいたします。
- ・新型コロナウイルスの感染予防対策をしっかり行います。

訪問看護ステーション いちご

法人目標「One Team 共に歩もう 温かい心で」

昨年以來、新型コロナウイルスの蔓延で、世界的に感染症のパンデミックに見舞われ、ウイルスは次々と変異し、今やオミクロン株の変異出現で新たな脅威に見舞われています。ワクチンの普及で、次々と解決をもたらしてはいますが、これまでもたくさんの高齢者の方々が犠牲となられた悲しいニュースが報道され、私共も日々、万全を期して、その予防と対策に全力を投じております。このような時代にあって、例え防御のマスク等付けていたとしても、人々は“温かな心と笑顔”で向き合えば、明るい明日への希望が湧いてまいります。私達は皆、令和の優しい気に包まれて、これからも手を携えて頑張ります。

超高齢化時代に向かい、高齢のご利用者の生きていくお姿や生きようにお力添えをさせて頂くことが私共後輩の本分であると信じます。コメディカルの一員として皆様の最善のお役に立たせて頂きますよう、精進努力を重ねてまいります。

オレンジカフェ すいもん

法人目標 「One Team 共に歩もう 温かい心で」

社会福祉法人晃宝会の地域貢献事業である認知症カフェとして開設した「すいもん」は今年4月に5周年になります。月1回のリズム体操、田原新鮮野菜販売、フラワーアレンジメント、クラフト教室、東大寺清掃ボランティア活動支援、2ヶ月に1回の手作り教室、月2回の二胡教室、チェロ教室を行い、感染に留意し活動しています。

地域に合った地域資源となるために、資源として機能するために、地域の信頼を得られるよう知恵をしぼり、行政や社会福祉協議会、地域住民との連携が必要です。そして高齢者の問題だけでなく、障害者、児童、生活困窮者などの問題にも奥深く、巾広く対応できるよう認知症カフェとしても実力をつけていきたいと考えています。

まずは、お客様お一人おひとりを大切にして傾聴し、お客様にとってホッとする場所、通いの場、居場所と心から感じていただけるよう関わる人や環境を整えて、お客様をお迎えしたいと思います。お世話になっていきますボランティアの方々、地域の皆さまのお力もいただきながら進めます。

常に温かい心で、共に歩みます。すいもんの関係者の皆さまと、One Team となり、法人全体とも、One Team となるよう努めます。

特別養護老人ホーム あじさい園宝

○法人目標「One Team 共に歩もう 温かい心で」について

コロナ禍での生活は、ご利用者にとっても職員にとっても、身近であった、人と人とのつながりを遠ざけるものとなってしまいました。ご家族や、地域の方々に支えられ、より良い施設運営を目指してきた我々にとっては、安心できる地域拠点としての役割を果たしているだろうかと考えることもありました。そのような中で、職員から、ご利用者のご家族や大切な人と過ごす時間が少しでも増えるよう、チーム一丸となって温かい気持ちを形にして支援しようという目標が生まれました。令和4年度は、法人の新しい事業所「ハーネ中御門」のスタートの年でもあります。事業所内はもちろん、各事業所同士がOne Teamになり、サービス種類を問わず、ご利用いただくすべての方々に、温かい心が届くよう、施設運営に努めてまいります。

1. 個室ユニット型施設としての個別ケアの充実

①ケアプランに基づいた生活支援

ご利用者の健康状態、ADL、生活全般の観察を通じた現況の把握と分析を行い、自立と意思決定の機会が少しでも増えるようなケアプランの作成を目指します。また、ケアカンファレンスでは、多職種連携によって、より専門的、多角的な視点から意見交換を行い、ケアプラン作成に役立てます。特に、医療・栄養・機能訓練において、専門職がご利用者お一人おひとりの状態を科学的に分析し、充実したケアプラン提供を目指します。作成されたケアプランは、フロアの全職員へ周知徹底を図り、統一したケアの提供に努めます。

②24時間シートの活用

健康寿命が延びるにつれ、ご利用者の施設での生活に対する個々のニーズも高まっています。今までの生活の延長線に施設での暮らしがあり、その人らしい生活を実現するために、24時間シートを活用したケアの提供に努めます。安全で健康的な生活を送っていただくために、日常の記録とケアの提供の連動性に気を配ります。

③快適な入浴及び排泄ケアの実践

ご利用者の心身の状態に応じて個別浴、機械浴といった入浴方法を提供し、安心、安全な入浴介助に努めます。プライバシーに配慮し、適切な入浴介助を行うことは、ご利用者の清潔を保持し、心身のケアにも繋がることを期待できます。

ご利用者の排泄リズムに合わせたケアと、適切な排泄用品の選定をいたします。失禁率を減らせるよう、記録を分析・検討し、ご利用者の不快感と職員の負担軽減に努めます。質の高い排泄ケアを提供することで、夜間の睡眠を十分に確保し、健康的な生活を送っていただきます。また、トイレでの自然排泄が継続できるように、自立に向けた支援をいたします。

④食べる楽しみを感じていただける食事支援

旬の食材を使用し、献立を日々見直し、手作りのメニューを多く取り入れることで、施設で生活されるご利用者にとって、毎日のお食事が楽しみ事になるよう支援いたします。ユニットケアの特徴を活かして、調理中の香りや、目の前で盛り付けなど、五感でお食事を味わっていただけるように、介護職員と管理栄養士、調理員が連携して食事提供を行います。また、新型コロナウイルス感染症の影響で、外出や園内行事が制限さ

れる中で、行事食やおやつ、お誕生日会のケーキなど、季節を感じていただけるお食事の提供はとても重要であると考えます。美味しく、楽しく、ご自身のお好きなものを召し上がっていただき、心と身体の栄養補給をしていただけるような食支援を行います。そして、管理栄養士による栄養ケアマネジメントを実施し、ご利用者の日々の健康管理に、食事面でのサポートをさらに充実させます。低栄養のリスクを3段階で評価し、リスクが高い利用者には2週間ごと、中程度の利用者には4週間ごと、リスクが低い利用者には概ね3か月ごとにアセスメントを行います。そのアセスメントに基づき、管理栄養士が介護職員とカンファレンスやミールラウンドを行い、摂食・嚥下の状態等を考慮した上で、食事形態をより細かく見直していきます。住み慣れた施設で最期まで穏やかに生活していただくためには、看取りケアを行う際の栄養ケアや食支援が非常に重要です。ご本人やご家族の意向を把握し、その人らしい生活を納得した形で送っていただけるよう支援いたします。

⑥ 口腔衛生管理の徹底

LIFEシステムへの口腔ケア情報の入力とデータの分析を取り入れ、より科学的根拠に基づく口腔ケアの実現を目指します。歯科衛生士による専門的口腔ケアや介護職員による日常の口腔ケア、口腔リハビリテーションを積極的に行い、口腔機能の維持・向上を図ります。当法人では、「口腔は人生の入口」であり、全身の健康管理に口腔ケアがとても重要であると考え、歯科医師による定期健診を実施し、必要に応じて歯科治療も行います。近年ますます、介護における口腔ケアの重要性が高まるとともに、従来の誤嚥性肺炎やインフルエンザなどの感染症予防という目的以外に、栄養管理のための口腔ケアという位置づけが広く認識され、栄養ケアマネジメントと口腔ケアの連携が重要課題であります。ご利用者ができるだけ施設での生活を継続できるように、法人の強みである歯科口腔領域の専門性をより高め、栄養ケアにも活かしてまいります。

⑦ 医療的ケアの充実

コロナ禍において、ご利用者、ご家族が、病院ではなく施設での生活を安心して継続できることを望まれるケースが増えております。嘱託医を中心に、看護職、介護職が連携して日々の健康管理を行い、疾病の悪化予防への早期対応を行うことで、最期まで自分らしく住み慣れた場所で暮らしたいというご利用者のニーズに応えます。また、多職種が連携して「看取りケア」を行います。その中で、しっかりとした医療知識と技術を職員が身に付け、医療的ケアの充実を図ります。

2. 清潔・安全・快適な生活環境の整備

ご利用者やご家族にとって、利用したいと感じていただける施設であるためには、清潔保持と感染症対策を徹底し、安心・快適な生活環境を整備する必要があります。また、心身の状態に合わせた介護機材を整備し、職員一人ひとりが適切に使用、管理できるようにいたします。

- ① 共用スペースの定期的な整理・整頓の実施
- ② 共用スペースや居室の定期的な消毒の実施
- ③ 介護機材の定期的な洗浄、消毒の実施
- ④ 備品や家電等のメンテナンス

3. ICTを活用した余暇活動の充実を図り潤いのある日常生活を提供

コロナ禍においても、ご利用者に少しでも社会とのつながりや季節感を感じる生活を送っていただけるよう、オンライン面会やオンラインコンサートなど、ICTを活用した行事運営を積極的に行います。また、社会情勢に応じて、対面での面会や行事運営を柔軟に行ってまいります。

4. テクノロジーの活用による人材の育成、働きやすい職場へ

より質の高いサービス提供を維持・継続できる運営を行うために、引き続き職員の資格取得支援を充実させます。特に、実務経験3年以上の正規職員に対して、実務者研修修了や介護福祉士国家試験合格等、具体的な目標設定をし、スキルアップを目指します。また、既に介護福祉士資格を有する職員については、ユニットリーダー研修や介護支援専門員試験等、キャリアアップにつながる資格取得を目指します。そして、オンライン研修を積極的に取り入れ、コロナ禍でも学ぶ機会を減らさないよう支援いたします。

人材確保については、年齢や経験を問わず、働く意欲がある方を積極的に募集し、ともに学び、働きながら資格取得を目指すことができる環境を整えます。また、外国人技能実習生やEPA介護福祉候補者等の外国人人材を広く雇用し、共に学び、成長できる職場づくりを行います。

ワークライフバランスの実現にも力を入れ、子育てや介護等との両立ができるフレキシブルな勤務体制を整え、多様な働き方に対応することで、長くやりがいを感じながら働ける職場づくりを目指します。

- ① 施設内研修の充実
- ② ICTを活用した外部研修への参加
- ③ 資格取得支援
- ④ コミュニケーション能力の向上
- ⑤ 丁寧な言葉遣いと清潔な身だしなみ
- ⑥ ライフスタイルに応じたシフト体制

5. 介護記録等のICT化

令和4年度より、ケアプランと栄養ケアマネジメントのより高度な連携とデータ共有を行うため、栄養ケアシステムと介護記録システムを追加導入いたします。記録のICT化を進めることで、職員間での記録の標準化と作業時間の短縮を目指します。また、外国人人材雇用の面でも、記録業務の早期習得に役立てます。

6. 災害への地域と連携した対応の強化

自治会との合同防災拠点として、ラジオ体操などの地域行事の拠点として、ご家族様や地域の皆様と、顔の見える関係づくりと施設運営を行います。コロナ禍においては、対面での情報交換の機会は減りましたが、引き続き、広報誌「のこのこたより」を中心に、地域拠点として皆様に知っていただくための情報発信を行います。BCPを策定し、災害時に“地域の安心拠点”となるよう、関係機関との連携体制の確保、避難等訓練の実施を強化し、職員全員が地域貢献活動に積極的に取り組みます。

7. 感染症対策の強化

新型コロナウイルス感染症対策をはじめ、感染症の発生および蔓延等に関する取り組みを強化し、職員一人ひとりが迅速に行動できるよう、知識と技術の習得に努めます。現行の委員会の開催、指針の整備、研修の実施とともに、感染症発生を想定した、より実践的なシュミレーションを定期的実施し、組織としての機能を高めます。

8. 短期入所生活介護と連携したご利用者の確保

申し込みから面接、入居までの流れをスムーズにし、新規入居者の確保に繋がります。また、ご利用者とご家族のニーズに常に耳を傾け、より質の高いサービス提供を行います。専門機関として、要介護、要支援を問わず、すべての介護保険利用者に適切な情報提供ができるように努め、電話や窓口対応を丁寧に真心込めて行います。そして、日頃より待機者情報を整理・更新し、満床継続と退居後の空床日数 14 日以下を目指します。

ショートステイ あじさい園宝

ご利用者お一人おひとりの意思を大切に、自律的な日常生活を営むことを支援することにより、心身の機能の維持並びにご家族様の介護負担の軽減を図れるよう介護サービスを提供いたします。新型コロナウイルス感染症の影響により、施設での集団生活に不安を感じるご利用者もおられることから、感染症対策と健康管理をより一層強化し、安心してご利用いただける施設運営を行います。医療機関、居宅介護支援事業所、地域の皆様との密接な連絡や相談に努め、24 時間 365 日誰かがいる安心と安全の下、ご本人、ご家族の希望に多職種連携、温かい心のチームケアで対応してまいります。

これまで同様併設ユニット短期生活介護の特徴を活かし、プライバシーを確保し、自宅の生活空間に近い状態で安心してくつろぎ、穏やかに過ごしていただけるように努めます。自分のペースで自分らしく生きたいお気持ちに寄り添い、ご本人、ご家族の願いを理解した支援が継続して行えるように、日々の業務に取り組んで参ります。個人を尊重すると共に、施設ならではのひととの交流や楽しみを味わっていただき、笑顔あふれる雰囲気を大切にいたします。

①医療機関、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターと連携し、ご本人の生活の安定・充実を図ると共に、ご家族の身体的・精神的負担の軽減を図れるように努めます。地域包括ケアの一翼としてご家族のレスパイトケア出来るよう、可能な限り利用希望を調整し、在宅生活の継続に尽力いたします。

②施設サービス計画書を作成し、自宅での生活の継続を念頭に、入浴・排泄・食事等の介護、相談及び援助・機能訓練・健康管理を行い、ご本人がその有する能力に応じて自分らしく快適に生活出来るよう支援いたします。長期ご利用者に対しては出来るだけリロケーションダメージを防げるよう、主治医、居宅介護支援事業所等と前もって情報を共有し、的確な支援の実施出来るよう職員の知識や技術の向上を目的とした研修・教育を行います。

③面接契約時のアセスメント時には、積極的に情報を得ることで個別サービスの充実と事故予防を図ってまいります。介護職、看護職、栄養職がご本人の望む暮らしの具体化を共有し、期待に応えるサービスの提供に努めます。自分らしい暮らしの実現に向け、ご本人の身体状況、好み、生活習慣を把握し、ご家族の協力のもとで自立支援に努めます。

④ご利用中毎日の健康管理の中で、お身体の状態を確認し、異常の早期発見に努め、適切な医療機関との連携を図ります。また感染症対策をしっかりと行い、ご利用者の安全の確保に努めます。

⑤地域の皆様に愛させる施設となるよう適時高齢者、障がい者の相談援助に努め、急な利用にも可能な限り対応し、年間の平均稼働率 95%を維持できる運営を目指します。

ハーネ 中御門

法人目標 「One Team 共に歩もう 温かい心で」

ハーネ中御門は共生社会の実現に向け、障がいの有無に関わらず、介護の原点である『相手の立場になり考え行動する』事を前提とし、ご利用者や地域の方や身近な方の困りごとを受け入れ手に手をとって共に歩める共生社会、地域とも連携をとれる社会資源の1つとなるようつとめます。

サービスの提供：自立した生活の目標に向け、芽をつまない支援を目指します。
過ごしやすい居場所となるよう、個々の特性を理解した上で、
ストレングスを活かして支援し役割を持つ事で自信を持てる
よう支援します。

職場の環境づくり：笑顔であいさつ、素直な気持ちや「ありがとう」と伝えられる
温かい職場の雰囲気づくりにつとめ働きやすい環境を整えます。

地域との連携：地域と事業所を繋ぐための取り組みとしてコロナ禍ではありますが、
時期や感染防止に配慮しながら運営推進会議で交流を図ります。

感染対策：ほか事業所間との情報の共有をし、予防と蔓延防止につとめます。

法人目標 『One Team 共に歩もう 温かい心で』

共に生き歩む上で、一人ひとり個性があり考えも異なり違って当たり前。だからこそ、
広い視野を持ち寛容な温かい心で受け止めていきたいと思えます。

お互いの課題を共有し理解し支え協力し合える環境になるよう事業所内・外が
One Team として機能するよう努めます。